

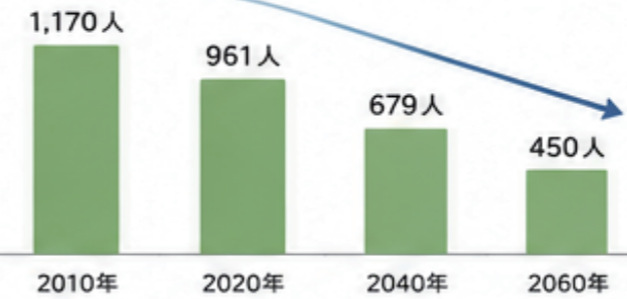
若い世代が少しずつ支える 道志村の移動サービス

車がなくても、年をとっても、安心して暮らせる村へ



なぜ今、この仕組みが必要なのか

生産年齢人口は減少していく
道志村の生産年齢人口（15～64歳）の推移



高齢化が進み、支える側も減っていく



高齢者を高齢者が支えるだけのモデルは、長期的に維持が困難に。

だからこそ、
新しい仕組みが必要です。

これまでの地域交通の課題

- 電話や口コミでの依頼が中心
調整に手間がかかる
- 特定の人に負担が集中
継続が難しい
- 固定の当番制や拘束が重い
若い世代は参加しづらい
- ドライバー不足・高齢化
将来的に担い手が減少

このままでは、移動サービスを維持していくことができません。



新しいモデル：若い世代が少しずつ支える仕組み

配車マッチングシステムで、必要な時に必要な人がつながる



年に3回の協力で、これだけの送迎が可能に

直近の需要（実利用ベース）

年間送迎回数
約396回

必要な協力者数

$396 \div 3 =$ 約132人

生産年齢人口の約14%で
運営が可能！

潜在的な需要まで含む場合

年間送迎回数
約768回

必要な協力者数

$768 \div 3 =$ 約256人

生産年齢人口の約27%で
運営が可能！

「年に数回だけ」の協力でも、村の移動を支える大きな力になります。

従来の地域互助と、新しい仕組みの違い

従来の地域互助	新しい仕組み（道志村モデル）
電話・口コミで依頼	アプリ・配車システムで依頼
顔見知り・固定メンバー	誰でも参加できるオープンな仕組み
当番制・強い拘束	行ける時だけ・年数回でOK
特定の人に負担集中	多くの人で分散して支える
高齢者中心で将来が不安	高い世代が参加しやすく、将来も持続可能

支え合いの循環が生まれる



この仕組みの特徴

- AI・配車マッチング
- 少回数参加
- 相乗りで効率的
- 仮想バス・定期便
- 地域互助の力
- 行政・NPO・住民連携
- 観光客も利用可能
- ポイント・インセンティブ

車がなくても
暮らせる村へ



みんなで少しずつ支え合うことで、
誰もが安心して暮らせる道志村をつくります。

- 今のうちに仕組みをつくることで、未来の安心につながります。
- このモデルは、他の地域にも応用できる可能性があります。
- クラウドファンディングや企業・行政との連携も進めていきます。

昼間働いているあなたの休暇を利用した **ちょっとした空き時間** で参加可能！
若い世代の**少しの協力**が、**村の未来**を変えていきます。



NPO 法人 道志村移動サービス
(設立準備中)

